

## 地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。  
この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。  
また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・ 利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・ 事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・ 運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	社会福祉法人 敬老会
代 表 者 名	理事長 相木 七良右工門
事 業 所 名	アクティブケア一宮崎
評 価 確 定 日	2020/10/19

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1872000409		
法人名	社会福祉法人 敬老会		
事業所名	アクティブケア宮崎 ひだまり		
所在地	福井県丹生郡越前町小曾原33-34		
自己評価作成日	令和 2年 8月 19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 2年 9月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内の広い庭園や各ユニットから眺められる景色などから四季折々の風景が楽しめる。越前地区の公共施設へ主に外出を行い、保育所慰問、中学校の職場体験、認知症カフェの実施など地域との交流を図っている。入居者様の思いを尊重し個別ケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲を緑豊かな山々に囲まれた自然があり、静寂な環境の中に立地している。母体法人が運営する特別養護老人ホームが隣接し、イベントや職員研修・委員会活動、避難訓練など連携して取り組んでいる。コロナ禍で、中止せざるを得ない支援がある中、利用者のストレス軽減を図るため、事業所周辺を散策したり、感染防止に配慮した外出をしている。またLINEで家族とビデオ通話ができるようにしている。更に月1回の広報誌を郵送し暮らしぶりを知らせることで、家族の安心感に繋がっている。職員の気付きを引き出し、改善計画書に沿って「なぜ」「どんな風に」を皆で検討しながら、業務改善に役立っている。職員は、「あたたかい事業所」と誇りを持ち、利用者との信頼関係を築き、温かく穏やかな暮らしができるよう相談・協力しながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針目標・理念をスタッフルームに掲げ、毎朝礼時に方針目標・施設理念を唱和し意識を高め実践している。	母体法人の理念をスタッフルームに掲げ毎朝唱和している。玄関には事業所独自の「こころざし」を掲示している。職員は理念の笑顔や思いやりを心に留め支援に取り組んでいるが、理念を振り返る機会がない。	日々の支援の中で、理念を生きているかを振り返ったり、理念を掘り下げて話し合うなど理念に立ち戻れる取組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の祭事などの行事には特養合同で参加し楽しんでいる。保育所、中学校との交流を行っている。	地区の祭りの際、神輿や太鼓が事業所に立ち寄り、保育園児が訪問しお茶会を催している。事業所は認知症カフェを開催したり、管理者手作りの紙芝居を学校や図書館に提供するなど地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験の受け入れ、法人が行っている認知症カフェの実施、委員会等の視察受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。ホーム活動状況等報告し、行政関係、住民代表、家族代表の方々からいただいた情報や助言など共有し、サービス向上につなげている。	家族、民生委員、区長、町職員、地域包括支援センター、社会福祉協議会が出席し、2か月に1回開催。活発に意見交換をして、その経緯は議事録に掲載している。外部評価の結果や身体拘束等適正化に関する委員会・指針・研修に関しての記載はない。	外部評価結果、目標達成計画や身体拘束等適正化委員会報告を行い、話し合い、そこでの意見をサービスの向上につなげるよう取組むことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール、電話等で直接担当者と連絡をとり、内容によってはお会いして意見、助言を頂いている。	運営推進委員会の時に状況報告などの話し合いをしている。困難事例について相談したりアドバイスをもらったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束適正化委員会を設け、研修等で身体拘束の弊害や身体拘束をしないケアの実践について学んでいる。職員間で情報を共有し正しい認識の元取り組んでいる。	年2回法人として「倫理・法令遵守」研修を行い、身体拘束廃止の理解も深めている。利用者が不穏な状態になれば職員間で情報交換し、原因や対応について話し合うようにしている。しかし、まれに不適切な声かけの場面に遭遇しても、指摘しにくいこともある。	認知症の中核症状とBPSDの理解をはじめ、職員の言動が及ぼす影響や不適切なケアについて学習会を開催し、個別認知症症状に対応できるよう研鑽する取組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に虐待防止委員会を設け、研修等にて対象となる虐待、虐待の防止等学び、虐待の無いケアの実践について学んでいる。職員間で情報を共有し正しい認識のもと取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利等についての法人内研修等を受け学んでいる。成年後見人制度を利用されている方を受け入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、管理者がご家族の方に直接説明し、理解、納得をしていただいている。改定時、文面にてご報告し、質問等を受け付け、理解、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年9月にお客様アンケートを実施し、集計結果、ご要望やご意見に対する回答を広報誌に掲載している。	面会時に家族からの意見を聞くようにし、申し送りノートに記載し職員へ周知できるようにしている。また年1回家族アンケートを実施し結果や取組んだ対策などを広報誌に掲載している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善提案書にて、職員からの提案を検討し実施している。年3回面談も行い、普段から話を聞く姿勢を持っている。	1年に30件の提案を目標に、職員の「気づき」を改善提案書に基づき取組んだ結果、意見が言いやすくなり職員の意識も高まった。管理者は日頃から職員の意見や思いを聞く事に心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を可能な限り聞き入れ、各々の得意な分野を活かせる環境作りに努め、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己分析表、スキルアップ表を作成し、職員の力量の把握、レベルにあった研修を奨励したり、毎月の法人研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会している。居宅介護支援事業連絡会にも参加し情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入所を希望されれば受け入れている。事前に面談を行って、本人の思いや不安を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面会時に困っている事、不安に思っていることをお聞きし、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅マネージャー等と情報など調査し、必要としている支援の把握に努め、安心してサービスが受けれるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事や、なじみのある作業などを把握し、提供できるよう職員で努めている。役割を持っていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を実施し参加していただいている。外出時、付き添いを年1回お願いしている。受診等を家人に協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人と外出していただいたり、ドライブ等で家の側に出かける事もある。知人の面会もある。	墓参りや馴染みの美容室に出かけたり、知人の面会等の支援をしている。今年は暑中見舞いを作成し、作成時の利用者の写真を添えて郵送し、家族から喜びの声を聞く事ができた。電話やビデオ通話も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時には、普段の席にかかわらず全員参加で入居者同士、関りを持てる内容のレクを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、相談・支援の協力を家人に知らせてある。家人に会ったときは様子をうかがうなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、要望があった場合、また普段の様子から思いをくみ取り、職員間で情報を共有しくみ取れるよう努めている。	関わりの中で、利用者の言葉や表情から思いを把握している。表現しにくい利用者には正面から笑顔で話すことを心がけ、思いを把握するようにしている。気づいた事は記録や申し送りで共有、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族、本人から情報収集を行い生活歴やなじみの暮らしの把握に努めている。また居宅ケアマネージャーと連携しサービスの利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動や身体の状態をしっかりと観察し、職員間で情報を共有しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で気づいた事などを申し送り等おこないながら現状に合った介護計画を作成している。	本人や家族の意向を踏まえ介護計画を立案している。モニタリング表にサービス内容を挙げ、毎日チェックし、3か月毎にプランの見直しをしている。利用者の状態が変化した時は、その都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りの記録、モニタリングなどから職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時対応は、本人や家人の意向を聞いて、柔軟に対応している。状況が変わっても、その時々にも生まれるニーズにも対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアと交流している。毎月おこなう生け花クラブは地域の方に講師を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内病院を主治医とし、入所前のかかりつけ医を希望される時は希望を受け入れている。3か月に1回、定期受診を行っている。	以前からのかかりつけ医に受診する場合は家族が同行している。その際書面にて生活状況を報告している。法人内病院が主治医の場合は3か月毎に定期受診を行い、家族に報告している。往診の体制もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録を毎日記録し、法人内の看護師と連携を取り、情報を共有し、適切な看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療関係者と情報提供を行い、家人とカンファレンスを行う。退院後の生活について相談等、医療関係者と情報交換等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについて説明を行っている。状況に合わせてカンファレンスを実施、看取り指針に沿って対応し、支援に取り組んでいる。	事業所として「できる事・できない事」を家族に説明し、病院や特別養護老人ホームに移行するケースが多い。看取り指針を整備し、さらに職員は看取り研修に参加し、終末期の支援について学ぶなど、柔軟に看取りの対応ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の救急救命講習を年2回行い、受講し実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練、年1回原子力被災訓練を実施し、緊急時に対応できるよう避難方法を見に着けるよう努めている。	年2回の防火訓練と年1回の原子力被災訓練を実施している。応援体制として利用者の情報を伝えつつ避難する事や、一斉メールでの職員への通報等安全に素早く避難できる方法を訓練している。食料、水などの備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴介助時は声掛け等に注意しプライド等損なわないよう心掛けている。本人の人格等否定せず話を聞く姿勢を心がけている。	法人内で開催される研修に参加している。職員は人生の先輩として尊敬の気持ちで関わるよう心がけ、プライバシーを損なわず、自己決定できるような声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が言いやすい環境になるように努め、自己決定できる場面作りや関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人のペースや希望に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、美容室が来設し散髪をされているが、なじみの美容室を希望される方は送迎している。本人が望まれる洋服など家人に連絡し持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事として、太巻きづくりやほおば飯など季節を感じられるメニューや郷土料理を本人に作っていただいている。下膳を手伝っていただくなど協力していただいている。	朝食・昼食は職員が調理し、夕食は業者の食材に職員の手作り料理を足して提供している。利用者は食材の皮むきやテーブル拭き等できる事を手伝っている。職員と利用者で作る行事食やお菓子作りなどは楽しみの一つとなっている。箸、湯飲み、茶碗は使い慣れたものを持参している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し、状態によっては栄養補助食品を取り入れている。御粥、刻み食が必要な方には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内に口腔ケア委員会を設け、口腔ケアに取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導以外にも、本人の排せつパターンを把握し、声掛け等行い誘導している。下肢筋力の維持に努めトイレでの排泄の維持に努めている。尿量等に合ったパット類を検討し使用してもらっている。	排泄パターンを把握しさりげない誘導やパット類を工夫することで布パンツの利用者は7、8名いる。夜間は紙オムツが必要な利用者に対し、日中はトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操、リハビリ体操を毎日行い運動を促し、牛乳、乳製品を提供し自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴にかかる時間を考慮し、入浴時間決めている。基本、午前中に入浴されるが、拒否等あった場合は日にち、時間を変更し対応している。	週2回の入浴で、利用者のペースにあわせて入浴ができるよう配慮している。個浴ではあるが広いスペースでゆったりでき、楽しみの一つとして入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況を把握し、体調や状況に合わせて休息していただいている。日中は適度な運動や活動を行い生活のメリハリをつけ、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個別にファイルし、職員が常に確認できるようにしている。臨時薬、薬の変更等ある場合、申し送りや記録にて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や得意な事好きな事を把握し、役割を持っていただきながら生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と外に散歩される方や、家人に協力していただき外出をされる方もおられる。施設内での中庭など散歩できる機会を設けている。	外食や遠出等、利用者の希望を聞き外出をしていたが、コロナ感染対策で自粛となった。少しでも戸外に出る機会を作るために紫陽花の花見や越前海岸へのドライブに出かけている。また事業所周辺や中庭を散策して気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭の持ち込みは出来ない。外出時、預かり金から金銭を渡し、自由に買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯をもたれている方もおられ、電話をかけたいと言われる方は職員がかけて話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下に季節に合わせた飾りつけを行っている。遮光カーテン、グリーンカーテンなどを利用し、居室、ホールに湿・温度計を設置し快適に暮らせるよう努めている。	和風の玄関から広い廊下の先には共用空間がある。大きい窓からは十分に採光が望め、庭園風景も広がり開放的である。壁には利用者と職員で作った季節の作品が飾られ温もりがある。利用者は食卓やソファでゆっくりと思いつきに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時の自席は決められているが、フリーの椅子、ソファを用意し、好きな時に座っていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでいただき、家族写真などを飾ったりされている。	馴染みの家具や寝具類、家族の写真など、利用者が暮らしやすく落ち着けるよう配置している。また、居室の外のウッドデッキには出入りができ、利用者は庭園を眺めたり季節を感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレにはわかるような目印をつけている。手すりを廊下、居室等いたるところに設置、完全バリアフリーで安心して歩行できるようにしてある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1872000409		
法人名	社会福祉法人 敬老会		
事業所名	アクティブケア宮崎 だんらん		
所在地	福井県丹生郡越前町小曾原33-34		
自己評価作成日	令和 2年 8月 19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 2年 9月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内の広い庭園や各ユニットから眺められる景色などから四季折々の風景が楽しめる。越前地区の公共施設へ主に外出を行い、保育所慰問、中学校の職場体験、認知症カフェの実施など地域との交流を図っている。入居者様の思いを尊重し個別ケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ひだまり」と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針目標・理念をスタッフルームに掲げ、毎朝礼時に方針目標・施設理念を唱和し意識を高め実践している。	「ひだまり」と同じ	「ひだまり」と同じ
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の祭事などの行事には特養合同で参加し楽しまれている。保育所、中学校との交流を行っている。	「ひだまり」と同じ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験の受け入れ、法人が行っている認知症カフェの実施、委員会等の視察受け入れを行っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。ホーム活動状況等報告し、行政関係、住民代表、家族代表の方々からいただいた情報や助言など共有し、サービス向上につなげている。	「ひだまり」と同じ	「ひだまり」と同じ
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール、電話等で直接担当者と連絡をとり、内容によってはお会いして意見、助言を頂いている。	「ひだまり」と同じ	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束適正化委員会を設け、研修等で身体拘束の弊害や身体拘束をしないケアの実践について学んでいる。職員間で情報を共有し正しい認識の元取り組んでいる。	「ひだまり」と同じ	「ひだまり」と同じ
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に虐待防止委員会を設け、研修等にて対象となる虐待、虐待の防止等学び、虐待の無いケアの実践について学んでいる。職員間で情報を共有し正しい認識のもと取り組んでいる。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利等についての法人内研修等を受け学んでいる。成年後見人制度を利用されている方を受け入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、管理者がご家族の方に直接説明し、理解、納得をしていただいている。改定時、文面にてご報告し、質問等を受け付け、理解、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年9月にお客様アンケートを実施し、集計結果、ご要望やご意見に対する回答を広報誌に掲載している。	「ひだまり」と同じ	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善提案書にて、職員からの提案を検討し実施している。年3回面談も行い、普段から話を聞く姿勢を持っている。	「ひだまり」と同じ	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を可能な限り聞き入れ、各々の得意な分野を活かせる環境作りに努め、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己分析表、スキルアップ表を作成し、職員の力量の把握、レベルにあった研修を奨励したり、毎月の法人研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会している。居宅介護支援事業連絡会にも参加し情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入所を希望されれば受け入れている。事前に面談を行って、本人の思いや不安を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面会時に困っている事、不安に思っていることをお聞きし、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅マネージャー等と情報など調査し、必要としている支援の把握に努め、安心してサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事や、なじみのある作業などを把握し、提供できるよう職員で努めている。役割を持っていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を実施し参加していただいている。外出時、付き添いを年1回お願いしている。受診等を家人に協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人と外出していただいたり、ドライブ等で家の側に出かける事もある。知人の面会もある。	「ひだまり」と同じ	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時には、普段の席にかかわらず全員参加で入居者同士、関りを持てる内容のレクを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、相談・支援の協力を家人に知らせてある。家人に会ったときは様子をうかがうなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、要望があった場合、また普段の様子から思いをくみ取り、職員間で情報を共有しくみ取れるよう努めている。	「ひだまり」と同じ	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族、本人から情報収集を行い生活歴やなじみの暮らしの把握に努めている。また居宅ケアマネージャーと連携しサービスの利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動や身体の状態をしっかりと観察し、職員間で情報を共有しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で気づいた事などを申し送り等おこないながら現状に合った介護計画を作成している。	「ひだまり」と同じ	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りの記録、モニタリングなどから職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時対応は、本人や家人の意向を聞いて、柔軟に対応している。状況が変わっても、その時々にも生まれるニーズにも対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアと交流している。毎月おこなう生け花クラブは地域の方に講師を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内病院を主治医とし、入所前のかかりつけ医を希望される時は希望を受け入れている。3か月に1回、定期受診を行っている。	「ひだまり」と同じ	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録を毎日記録し、法人内の看護師と連携を取り、情報を共有し、適切な看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療関係者と情報提供を行い、家人とカンファレンスを行う。退院後の生活について相談等、医療関係者と情報交換等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについて説明を行っている。状況に合わせてカンファレンスを実施、看取り指針に沿って対応し、支援に取り組んでいる。	「ひだまり」と同じ	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の救急救命講習を年2回行い、受講し実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練、年1回原子力被災訓練を実施し、緊急時に対応できるよう避難方法を見に着けるよう努めている。	「ひだまり」と同じ	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴介助時は声掛け等に注意しプライド等損なわないよう心掛けている。本人の人格等否定せず話を聞く姿勢を心がけている。	「ひだまり」と同じ	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が言いやすい環境になるように努め、自己決定できる場面作りや関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人のペースや希望に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、美容室が来設し散髪をされているが、なじみの美容室を希望される方は送迎している。本人が望まれる洋服など家人に連絡し持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事として、太巻きつくりやほおば飯など季節を感じられるメニューや郷土料理を本人に作っていただいている。下膳を手伝っていただくなど協力していただいている。	「ひだまり」と同じ	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し、状態によっては栄養補助食品を取り入れている。御粥、刻み食が必要な方には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内に口腔ケア委員会を設け、口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導以外にも、本人の排せつパターンを把握し、声掛け等行い誘導している。下肢筋力の維持に努めトイレでの排泄の維持に努めている。尿量等に合ったパット類を検討し使用してもらっている。	「ひだまり」と同じ	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操、リハビリ体操を毎日行い運動を促し、牛乳、乳製品を提供し自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴にかかる時間を考慮し、入浴時間決めている。基本、午前中に入浴されるが、拒否等あった場合は日にち、時間を変更し対応している。	「ひだまり」と同じ	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況を把握し、体調や状況に合わせて休息していただいている。日中は適度な運動や活動を行い生活のメリハリをつけ、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個別にファイルし、職員が常に確認できるようにしている。臨時薬、薬の変更等ある場合、申し送りや記録にて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や得意な事好きな事を把握し、役割を持っていただきながら生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と外に散歩される方や、家人に協力していただき外出をされる方もおられる。施設内での中庭など散歩できる機会を設けている。	「ひだまり」と同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭の持ち込みは出来ない。外出時、預かり金から金銭を渡し、自由に買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯をもたれている方もおられ、電話をかけたいと言われる方は職員がかけて話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下に季節に合わせた飾りつけを行っている。遮光カーテン、グリーンカーテンなどを利用し、居室、ホールに湿・温度計を設置し快適に暮らせるよう努めている。	「ひだまり」と同じ	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時の自席は決められているが、フリーの椅子、ソファを用意し、好きな時に座っていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでいただき、家族写真などを飾ったりされている。	「ひだまり」と同じ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレにはわかるような目印をつけている。手すりを廊下、居室等いたるところに設置、完全バリアフリーで安心して歩行できるようにしてある。		